

令和7年度の事業策定方針

1 趣旨

近年、若者のものづくり離れが進んでおり、これが企業の人手不足の一因となっています。若者たちは、身近に目にする仕事やサービス業など、他の分野への関心が高まっており、ものづくりや製造業に対する関心が低下しています。この傾向は、技術の高度化や自動化が進む中で、ものづくりに対するイメージや魅力が薄れていることも影響しています。若者たちが将来のキャリアとしてもものづくり業界に進む意欲を持たないことが、企業が適切な人材を確保する上で課題となっています。教育や啓発活動などを通じて、若者にもものづくりの魅力や重要性を伝える取り組みが必要です。

以下の二つの観点から、事業の見直しを行います。

- ・魅力ある推進協事業および事業の活性化
- ・高校生、短大校生、企業の経験価値をつなげた成長機会の創出

1点目として、現在行っている講演会、見学会、OneDay プレミアムセミナーなどの事業は、会員企業の人材育成や交流を目的としているため、会員間のみでクローズしています。短大校の企業実習や情報交流会では、学生や職員と接触する機会はあるものの、それ以上の広がりはありません。2点目として、各ステークホルダーとの関わりを増やす機会を作っていく必要があります。卒業生と学生との交流、卒業生が高校生へものづくり紹介する機会などで、ものづくりに対するイメージや魅力を伝えると同時に、若手社員の成長を促していきます。

2 事業見直し

次の5つの事業を新たに計画します。

①事業成果発表会（仮称）	会員企業の事業報告の場を作り、会員相互の交流を図るとともに、発表を通じ従業員の成長の機会とします。
②卒業生のホームカミングデー（仮称）	卒業生と学生が直接会話をする機会を作り、仕事の説明や会社の説明を通じ、学生に仕事や会社を深く知ってもらう機会とするとともに、卒業生の成長の機会とします。
③オープンキャンパスへの学生協力の支援	学生募集においては、「高校生と在校学生との交流は効果大きい」と言われています。在校学生が土日に開催されているオープンキャンパスに参加してもらう際の学生の支援をします。
④高校内ガイダンスへの卒業生の協力と支援	高校で行われている進路ガイダンスの「社会人講和」において、ものづくりエンジニアである卒業生が、高校生に対して仕事の魅力を伝えます。その際の卒業生の支援をします。
⑤女子エンジニア交流会（仮称）	短大校のOGに協力してもらい、高校生とエンジニアであるOGとの交流を図り、エンジニアをめざす女性を増やす、短大校の応募につなげる機会とします。

以上の5つの事業を新設するために、初期の目的を達した次の短大校活動支援事業は廃止または縮小します。

- ・テクニカルショウヨコハマへの出展支援
- ・しごと・ものづくり学習支援「ものづくりワクワク倶楽部」ものづくり体験